

Passport

2022 秋 Vol.48

男らしさ、女らしさにとらわれず、自分らしく暮らせる社会。お互いに認め合い、個性と能力を発揮できる佐賀市の実現をめざしましょう。



政治参画推進セミナー



活躍中の女性にインタビュー



男女共同参画推進協賛事業所紹介



家事・育児に積極的なお父さんを紹介

CONTENTS

- ・政治分野における男女共同参画について……………P1
- ・男性の家事・育児参画啓発キャンペーン……………P5
- ・令和4年度 政治参画推進セミナー……………P2
- ・男女共同参画推進協賛事業所紹介……………P6
- ・活躍中の女性にインタビュー……………P3~P4
- ・SDGs(ジェンダー平等)……………P7

政治分野における男女共同参画

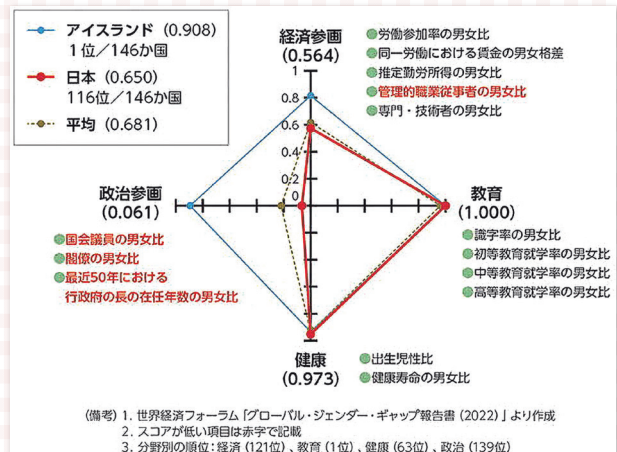
ジェンダー・ギャップ指数2022

2022年7月、世界経済フォーラムが各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数を発表しました。この指数は、「経済」「教育」「健康」「政治」の4つの分野のデータから作成され、2022年の日本の総合順位は146か国中116位（前回は156か国中120位）でした。先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中では、韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となりました。

	国名	値	前年比 (順位)
1	アイスランド	0.908	—
2	フィンランド	0.860	—
3	ノルウェー	0.845	—
4	ニュージーランド	0.841	—
5	スウェーデン	0.822	—
10	ドイツ	0.801	↑1
15	フランス	0.791	↑1
22	英国	0.780	↑1
27	米国	0.769	↑3
79	タイ	0.709	—
83	ベトナム	0.705	↑4
92	インドネシア	0.697	↑9
99	韓国	0.689	↑3
102	中国	0.682	↑5
115	ブルキナファソ	0.659	↑9
116	日本	0.650	↑4
117	モルディブ	0.648	↑11

日本は、「教育」の順位は146か国中1位と世界トップクラスの値である一方、「健康」は63位、「経済」は121位、「政治」は139位となっています。

分野	順位	昨年の順位
経済	121	117
政治	139	147
教育	1	92
健康	63	65



政治参画の状況

● 閣僚における女性割合…10.5% (2022年8月10日時点)

19の閣僚ポストのうち、女性は経済安全保障担当大臣、文部科学大臣の2人のみ。

● 衆議院女性議員比率…9.7% (2021年11月時点)

世界各国の議会全体の26.0%を大きく下回り、190か国中168位です。G7(先進7か国)では、フランスが39.5%で31位、アメリカが27.6%で72位、日本は唯一100位台でした。(IPU(列国議会同盟)2021年10月調査)

● 地方議会の女性割合

	女性議員割合	議員数	女性議員数
都道府県議会	11.6	2,621	305
市区町村議会	14.8	29,608	4,382

(2021年 8月 1日現在)

(2020年12月31日現在)

● 佐賀県議会議員の女性割合… 5.4%(2人/37人) (2022年9月1日時点)

● 佐賀市議会議員の女性割合…16.7%(6人/36人) (2022年9月1日時点)



女性議員に
聞いてみよう!

もっど政治に女性の意見を! 政治参画推進セミナー



開催日: 令和4年7月30日(土)

会場: 佐賀市立図書館 多目的ホール

主催: 佐賀市男女共同参画ネットワーク
佐賀市

ゲスト: 江原新子議員、白倉和子議員、
富永明美議員、中島妙子議員、
諸富八千代議員、山下明子議員

参加者: 約40人

佐賀市議会(定数36人)では、令和3年10月の改選により女性議員が3人から6人へと倍増し、より一層女性の意見が市政へと反映できることが期待されています。女性議員の話を通して、政治分野での男女共同参画や佐賀市の未来について、参加者と一緒に考えてみました。参加者の中にはSDGsからジェンダー平等について学ぶ中で、特に男女間格差の大きな政治分野について調べてみようかと参加してくれた高校生もいて、とても有意義な会となりました。

○自己紹介

一人5分の自己紹介で一気に会場との距離が近まりました。

○事前に寄せられた質問に対してのお考えを伺いました。

- ・障がい者が生活しやすい環境づくりについて
- ・女性の政治スクールの必要性について

○会場からの質問にもお答えいただきました。

- ・クオータ制*1についてどう考えるか
- ・議会で女性だから困ったこと
- ・今後どういう佐賀市にしていきたいか



クオータ制*1: 議会における男女間格差を是正することを目的とし、性別を基準に女性又は両性の比率を割り当てる制度。OECD加盟30ヶ国中、クオータ制を導入していないのは4ヶ国。日本はその1つです。

受講者の感想

アンケートでは95%以上の参加者が、今回のセミナーをとおして「議員」という職業について理解が深まったと回答されました。

高校生から年配者まで、幅広い年齢層のたくさんの方が参加されていました。

議員のみなさんの「佐賀市を住みよい町へ」という熱い気持ちと、市民の「佐賀市を安心して暮らし続けられる町にしたい」との想いがつながり、2時間半という時間があっという間に過ぎました。

新型コロナウイルス感染拡大の中でしたが、感染防止に細心の注意を払われ、無事に開催出来て良かったです。

(編集委員 松永光子)

議員のみなさんの思いを、直接聞くことができた有意義な機会でした。

参加していた高校生二人に感想をたずねたところ、「汚職などのニュースを見て、今まで議員の人たちには良い印象を持ってなかったけれど、身近で熱意のある人たちが頑張っていることが分かり、参加して本当によかったです。学校でも伝えたい。」と笑顔で話され、若い世代に新しい意識の芽が育ち始めている事を実感しました。

(編集委員 友安賀代子)

女性参画研究会・さが 理事長 山崎和子さん

「政策決定の場へ女性30%の実現」～ジェンダー平等の社会をめざして～

女性の社会進出や地位向上に貢献され、令和4年6月に「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」を受賞された山崎和子さんに、男女共同参画についての思いを伺いました。

◎この度の受賞、おめでとうございます。

ありがとうございます。今回の受賞は、これまで活動を支えてくださった先輩や仲間のおかげだと感謝しています。これは、みんなでいただいた賞だと思っています。

◎平成8年7月に任意団体「女性参画研究会・さが」が設立されましたが、そのきっかけは？

平成7年、北京で開催された世界女性会議NGOフォーラムに参加しました。そこで、政策決定の場をあまりにも男性に任せ過ぎて女性の声が反映されていないことが、多くの問題を解決困難にしていることを再認識した設立当初のメンバーたちが、女性が主体的に、積極的に政策決定へ参画する必要性を痛感したのがきっかけです。

◎現在、「女性参画研究会・さが」ではどのような活動をされていますか？

あらゆる分野で女性の参画を推進する活動を行っています。

今年度は佐賀県女性議員ネットワーク、佐賀女子短期大学と共催で「さが・女性政治塾」を6月に開講しました。女性政治塾には30～40歳代の女性が多く参加され、若い人たちが政治に関心を持ち始めていると受け止めています。政治に関心をもってもらい、「議員を志す人」や「議員を志す人を支援する人」も必要だと考えています。

◎男女共同参画社会がさらに進展するようになるために、今後、力を入れていきたいことは？

- ・昨秋以来、佐賀県内市町議会議員選挙では女性の活躍が目立ちましたが、女性議員が一人もいない議会がまだ3町あります。今年の参議院選挙でも当選者に占める女性の比率が28%と過去最高になりましたが、さらに比率を上げるには「クオータ制」などの法整備が望まれます。「政策決定の場へ女性30%」を実現するための後押しをしていきたいです。
- ・若い世代に政治に関してもっと関心をもってもらうために、SNSなどで若い人たちにジェンダー平等などの情報を伝えていく必要を感じています。
- ・いわゆる「選択的夫婦別姓制度」の早期実現を期待しています。



特定非営利活動法人 女性参画研究会・さが

平成8年「法人女性参画研究会・さが」設立。平成14年特定非営利活動法人の認証を受ける。

佐賀県民に対して、政治参画意識を高める啓発活動、政策・方針決定過程への女性の進出支援に関する事業を行い、県民の男女平等の視点に立った意識改革と社会システムの構築に貢献することを目的とする。

感想

物事を一方の見方からだけでなく多方面から観察し、ジェンダー平等はどこまで進んでいるのか、女性議員がなぜ政治分野で必要なのかをしっかりとらえる視点を与えていただき、貴重な時間になりました。 編集委員 椋島陽一郎

インタビュー

佐賀災害支援プラットフォーム 共同代表 宮近由紀子さん

|| ~「支える人も支えられる人もみんなが笑顔になる!!」をめざして~ ||

宮近さんが復興支援に携わった、昨年8月に土石流災害を受けた「名尾手すき和紙工房」(佐賀県無形重要文化財)の現場でお話を伺いました。



◎現在のよう活動を始めきっかけは?

東日本大震災の復興支援を機に、「自分の町で発災したら何が出来るか」を見据えた災害復興支援「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」に、音楽やアートを通じた支援「だいでんいっしょプロジェクト」として参加しました。「遠く離れた佐賀からもできることを考えていこう」が今の活動につながっています。

◎復興支援活動で大切なことは?

「平時のつながり(顔が見える関係)」が大事。普段から、気軽に集まれる地域の拠点～協働の場～をつくっておくこと、それぞれのスキルやできること・できないことを共有しておくことが、地域の「未来を作る場」となると考えます。まずは自分を守る「自助」から地域で助け合う「近助」へ広がっていきましょう。「困った～どうしよう」「それなら私できるよ!」と気軽に言えるような場を作ることが大切です。

また、支援ボランティアが一過性のものではなく、そこで広がった人々のつながりによって地域が元気になっていくこともとても大切で、それを意識しながら支援活動を行っています。

◎復興支援活動で感じていることは?

「ケアする人のケア」です。災害支援の現場では被災された方はもちろん、地元で長期に支援する側も想像以上のストレスを抱えます。「ケアする」側の人のメンタルや意欲が失われてしまわないように、支援する側のケアも重要です。アロマや音楽もその一環としての役割もあります。



復興支援に携わった「名尾手すき和紙工房」の前で代表の谷口祐次郎さんと。

◎今後の目標は?

難しいことだけど、「みんなが笑顔になる場」、「みんなが自分の能力を発揮する場」をそこかしこに作る!それをめざしたいです。女性目線での支援や、障がいがある人や外国人など支援が届きにくい人たちをいかに支援と結びつけるかも課題です。

一般社団法人 佐賀災害支援プラットフォーム

被災地支援のためにアクションを起こしたい佐賀県民または同県に所縁のある人が、それぞれに活動をし、その情報交換や協力をするために集った「想いのプラットフォーム」。

県内外の被災地域へ、人・もの・資金を仲介する活動を行っている。災害時だけでなく、平時も定例会や研修会を行っている。

感想

パワフルで明るい印象の宮近さん。元気っぱいの語り口のなかには、本当に実行してきた人の強さと、きめ細やかで繊細なやさしさも共存しているように感じました。お話の中で特に、「ケアする人のケア」という言葉が心に残りました。災害支援以外にもアロマセラピストや音楽を通じての「人々の癒し」に携わってこられた宮近さんならではの言葉と受け取りました。これからの災害支援のリーダーにふさわしい頼りになる宮近さんにエールを送りたいです。

編集委員 高橋朋子

男性の家事・育児参画啓発キャンペーン

家族はチームだ!

みんなでやろう家事・育児

家事や育児は、家族が協力し合って取り組むこと。しかしながら、佐賀県の男性の家事関連時間は37分^(※1)で、全国46位とかなり少なく、家事や育児の負担が女性に偏っているのが現状です。「家族はチームだ!みんなで行おう家事・育児」を合言葉に、家事や育児に積極的に取り組むパパの姿をシリーズで紹介していきます。

※1「社会生活基本調査」
(H28・総務省)

市HPで他のパパたちも紹介しています。



阿久根 つぶらさん(27歳)

勤務先>学校法人 永原学園
家族構成>パパ+ママ+娘(4歳)+義父母+義祖母
得意な家事>料理・血洗い・洗濯

子どもと関わる時間が多いほど自分の喜びも増えていく
子どもは思い通りに動いてはくれないもの。だからこそ自分が余裕を持って、一緒に過ごす時間を大切にしています。おかげでいくつもの小さな成長の瞬間に立ち会えて、私自身の喜びもたくさん生まれました。



久原 輝雅さん(41歳)

勤務先>一般社団法人佐賀県農村地域情報センター
家族構成>パパ+ママ+息子(19歳・8歳・0歳)+娘(17歳・15歳)+祖父母
得意な家事>子どもの送迎、買い物、風呂掃除

家事をする習慣が身についたら親子の会話が増えました
もともと家事はあまりしてなかった私ですが、子どもたちが勉強や部活に励んでいる姿を見て「自分も頑張ってみよう」と思われました。いざやってみると親子の会話が増えたりして、暮らしが楽しくなったように感じます。



伊原 佑亮さん(40歳)

勤務先>株式会社佐賀銀行
家族構成>パパ+ママ+息子(7歳・11歳)
得意な家事>食事の後片付け・洗濯物を畳む・土日の食事作り

「ながら」「ついで」がポイント!
家事の効率化で家族と過ごす時間を確保
子どもの宿題を見ながら洗濯物を畳んだり、簡単な料理を作るついでに食器洗いを済ませたり。時間を効率よく使えると気分がいいですし、家族と一緒にのんびりする時間も多くなるようになりました。



中野 健一さん(45歳)

勤務先>ホテルニューオータニ佐賀
家族構成>パパ+ママ+娘(9歳・6歳)
得意な家事>料理、部屋の片付け、ゴミ出し

家族の時間は有限だからこそ大切に。家事を前倒しで済ませて、夜は皆でゆっくり
我が家は共働きで、夫婦の休日はバラバラ。家族全員そろって過ごすことが大切からこそ、皆で楽しく過ごすことを大切にしています。休みの日は、夕食や後片付けをみんなで早く終わらせて、家族で過ごす時間をつくっています。



井樋 啓一さん(33歳)

勤務先>レバレッジズオフィスサポート株式会社
家族構成>パパ+ママ+息子(0歳)
得意な家事>血洗い・風呂掃除・ゴミ出し

生活にも仕事にも良い影響が生まれる子育ては自分にプラスになることしかない!
息子が生まれて日々やるが増えた分、時間を有効活用する習慣が身につきました。生活リズムが整い、仕事にも張り合いができて、毎日が充実しています。子育ては、自分にとってプラスになることばかりです!



片淵 紘司さん(31歳)

勤務先>佐賀信用金庫
家族構成>パパ+ママ+息子(1歳)
得意な家事>料理、トイレ掃除、ゴミ出し

家事は特別なことじゃない。出来ることを続けられれば、いつの間にか日常になる
妻の妊娠期から、家事は自然と分担制になりました。夜に子どもが寝たら、翌日の食事の仕込みをスタート。家事が特別なことだという意識はないんです。出来ることを続けていたら、いつの間にか日常になっていました。

○今回紹介した方々は、佐賀市男女共同参画推進協賛事業所から推薦していただきました。

佐賀市男女共同参画推進協賛事業所紹介

市とともに男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいただいている協賛事業所を紹介します。(五十音順)

株式会社古賀商事 (鍋島・兵庫北) 総合建物管理業



当社は創業55年目を迎える総合ビル管理会社です。

電気工事・設備工事他、一般・産業廃棄物収集運搬等を営み、地域と共に歩んでいます。

産休、育休や年次有給休暇取得の推進、働きやすい職場環境づくりを今後ともめざしてまいります。

社会福祉法人こもればい 特別養護老人ホーム けやき荘(川副町) 社会福祉・介護事業



当法人は、今年で31年目を迎えた「高齢者介護」を中心とした社会福祉事業を行う社会福祉法人です。子育て環境や家庭生活の両立支援など、全職員が働きやすい環境づくりに努めています。具体的には、有休の取得への配慮や育児・介護休業制度の充実、職場復帰時の勤務時間の選択など柔軟な働き方を促進しています。

公益財団法人 佐賀県建設技術 支援機構 (鍋島町) 専門サービス業



当支援機構は県及び市町村の出捐により設立された公共工事の発注者支援業務を受託している公益財団法人です。令和3年8月に新社屋に移転し、男女共同参画推進のもと、男女差のない優秀な人材の登用を進め、積極的な休暇の取得や早出・遅出制度を活用し、ワーク・ライフ・バランスを推進しています。

株式会社 佐賀広告センター (天神) 広告業



当社は昭和43年創業し、55年目の総合広告代理店です。男女の差なく育成、登用を行い、給与などの待遇差もありません。働きやすい環境づくりを意識し、学校行事やPTA、地域行事への積極的参加の奨励、家庭都合など状況に応じたりモートワーク、業務による出退勤時間の調整など、働き方改革にも柔軟に取り組んでいます。

有限会社杉町鉄工所 (兵庫町) 金属製品製造業



当社は昭和26年創業し、70年以上佐賀で金属部品製造に携わってきました。2012年からは、「就労継続支援A型事業」も創業し、障害者雇用も積極的に行っています。ノー残業デーや年次有給休暇の取得など男女共に働きやすい職場の維持整備を心がけ、これからも地域に根ざし、「信用・信頼」をモットーに「より良い明日」をめざしてまいります。

男女共同参画推進協賛事業所 募集中!

事業所での男女共同参画の推進は、子育て環境の整備や仕事と家庭生活の両立支援など、事業所のイメージアップに繋がります。協賛事業所への登録をお待ちしています!

担当：佐賀市人権・同和政策・男女参画課
男女共同参画室

電話：0952-40-7014

FAX：0952-34-4549

申込用紙は佐賀市ホームページからもダウンロードできます。

詳しくは佐賀市HPをご覧ください。

<https://www.city.saga.lg.jp/main/3196.html>



5 ジェンダー平等を
実現しよう

ジェンダーの平等を達成しすべての 女性と女の子のエンパワーメントを図る



ジェンダー・ギャップ指数 経済分野 について考える

各国における男女格差を測る「ジェンダー・ギャップ指数」の4分野のうち、日本は特に「経済」「政治」における順位が低い結果となっています。ここでは146か国中121位となった経済分野について考えてみましょう。

1985年に成立した男女雇用機会均等法により、募集や採用などでの女性差別は違法となりましたが、差別的な雇用慣行は続いていました。1997年の均等法改正で採用や昇進での差別はようやく禁止されました。それでも、日本の女性の就労は「管理職の割合が低い」「非正規雇用の割合が多い」「平均所得が男性よりかなり低い」という実態があります。なぜでしょう？

「女性は出産や育児等により就労を中断される」「家事・育児・介護について家族の協力が少なく、保守的なジェンダー規範に沿って行動してしまう」「非正規雇用の割合が高いため、賃金が低かったり、解雇の対象になりやすかったりして、貧困など生活上の困難に陥りやすい」などの原因が考えられます。これらがこの3年間のコロナ禍で「女性の貧困」という形で表れました。

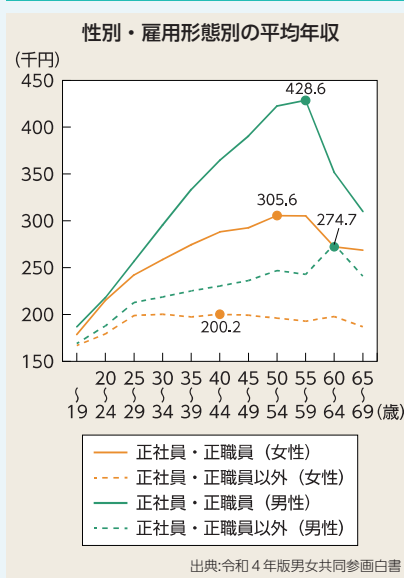
賃金、職種、雇用形態など女性を取り巻く就労環境があぶり出されたのです。経済的な男女格差をなくしていくために次の4つの取り組みが求められます。

- ①均等な就労機会
- ②性別にとらわれない雇用管理
- ③結婚・出産後も働き続けられる環境づくり
- ④多様な働き方を可能とする社会づくり (編集委員 草場栄美)

※第4次佐賀市男女共同参画計画では、「佐賀市女性の活躍に関する推進計画」として、経済分野における取り組みも掲げ、ダイバーシティ(多様性)社会の実現をめざしています。詳しくは佐賀市ホームページをご覧ください。



男女間の賃金格差



編集後記

2022年のジェンダー・ギャップ指数の日本の総合順位は116位(146ヶ国中)で前回とほとんど変わらず低迷しています。また、コロナ禍での女性の貧困も浮き彫りになりました。

しかし、このような中でも「政治に女性の声を!」、「災害の場で女性目線の支援を!」と活躍している人たちがいます。そして、令和3年には佐賀市の女性市議は改選前の2倍の6人になりました。48号はそうした輝く女性たちにスポットをあてています。

川に投げられた小さな石が大きな波紋となって広がっていくように、この女性たちの動きや声はジェンダーインクルーシブな(性別による分け隔ての無い)社会へのうねりにつながっていくと信じています。

一人でも多くの方に読んでいただければ幸いです。

(編集委員 矢ヶ部ひとみ)

編集委員

(五十音順)
椛島陽一郎・草場 栄美・高橋 朋子・友安賀代子・
松永 光子・矢ヶ部ひとみ

※編集委員は市民の方々にご協力いただいています。

【発行・お問い合わせ】

佐賀市 人権・同和政策・男女参画課 (ほほえみ館2階)
TEL.0952-40-7014 FAX.0952-34-4549
E-mail jinken@city.saga.lg.jp
URL <http://www.city.saga.lg.jp/> (佐賀市HP)